



2024年 栽培日記

JA滋賀蒲生町



Vol.4 ハウス 管理編

稲苗には高温や水不足は大敵で、必要以上に高温や水不足が続くと**苗焼け**の原因になります。そうならないようにするために、温度と水の管理が大切です。

【撮影日：2024年4月30日】



ハウス側面の窓を開けて換気します

稲苗が快適な環境で生育できるように、日中のハウス内温度を $20^{\circ}\text{C} \sim 25^{\circ}\text{C}$ に保つようにハウスの窓を開閉し、換気をして温度調節をします。 30°C を超えると**苗焼け**する可能性があります。

また、ハウス内が 5°C 以下になると、低温で稲苗の成長の妨げになるため、夜間の管理も必要です。



スプリンクラーで散水

ハウス内の温度管理と同じく水の管理も大変重要です。水不足になると、苗の葉が針のようになってしまいます。

また、水をやりすぎると苗が**徒長**して倒伏の原因となります。基本的に1日2回、朝と昼にハウス内のスプリンクラーを作動して水やりをしています。

苗焼けとは

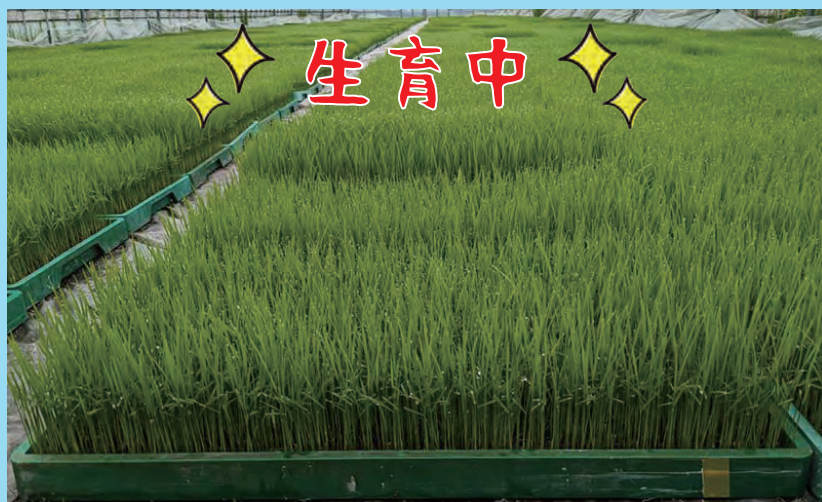
葉が部分的に白くなったり、枯れること。

育苗ハウス内の温度が高くなりすぎると発生する。

徒長とは

植物が**間延びした状態**に育ってしまうこと。

ヒョロヒョロと細長く、普通の苗よりも虚弱で枯れやすい。



このように、天候や気温の変化に合わせて育苗に適した温度や水の調整をし、生産者の皆さまに稲苗をお渡りするまで大切に育苗しています。